

個展によせて

2020年以来感染症拡大のためにヨーロッパへのスケッチ旅行がままならなくなったことは、私の目を否応なく日本の風景に向けさせました。

ジヴェルニーのモネの池に魅せられて以来、主にフランスの池や湖など水面のさまざまな表情を描いてきました。しかし、国内に限定するとなると、一体どこに私の心を惹き付ける水の風景があるのか全くわかりません。

とりあえず、もともと好きな京都を訪れてみることにし、水のあるところを探しまくりました。観光マップに載っている池を何か所か回りましたが、どうもじっくりきません。最後にあまり期待もせずに行ってみたのが、平安神宮内にある蒼龍池でした。閉門時間に近かったせいか、観光客が全くおらず、ひっそりとした水面に緑の木々が深々と映り込んでいます。京都の空が水の色をさらに深めています。

私の心が驚き、急に落ち着きました。まるで水面に引き込まれるようにして心が沈黙しました。私と日本の水の風景との初めての出会いでした。新たな発見でした。

以来、従来から魅惑されているフランスの水辺の風景とともに、京都や新宿など日本の身近なところに発見した美しい水辺を心躍らせながら描いています。

でも時々人の温もりもほしくなります。街の風景も描きたくなります。

静かな水面と賑わいのある街角、どちらも光が織りなす美しい光景、私の永遠のテーマです。

お楽しみいただけましたら誠に幸いです。